

# 北見工業大学学報

第287号 (2018年5月号)

## 目 次

入 学 式	平成30年度入学式を挙行……………	2
告 辞	平成30年度入学式告辞……………	3
入 試	平成31年度編入学学生募集要項の公表……………	6
	平成31年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項の公表……………	8
研 究 助 成	平成30年度科学研究費助成事業内定一覧……………	11
	平成30年度共同研究の受入状況……………	14
	平成30年度受託研究の受入状況……………	16
	平成30年度奨学寄附金の受入状況……………	16
人 事	人事異動……………	17
受 賞	本学学生が平成29年度地盤工学会北海道支部賞（学生部門）を受賞……………	18
諸 報	北海道内国立大学法人の経営改革の 推進に関する合意書を締結……………	19
	平成30年度技術セミナー（技術士養成支援講座）を開講……………	20
	複合型豪雨災害研究ユニット報告会を開催……………	21
	社会連携推進センター推進協議会総会を開催……………	22
	平成30年度構内美化作業を開始……………	23
	北見市産学官連携推進協議会総会を開催……………	24
	「新入生へのブックガイド」を発行……………	25
討 報	三木康臣准教授……………	26
日 誌	4月・5月……………	27

## = 入学式 =

### 平成 30 年度入学式を挙行

(総務課)

4月5日(木)、平成30年度入学式が午前10時から北見市民会館で行われました。

学部412人、学部編入学13人、大学院博士前期課程129人及び大学院博士後期課程9人に対して、鈴木聡一郎学長が入学許可した後、学長告辞を行い、続いて辻直孝北見市長、永田正記後援会会長、鳥越廣美同

窓会会長及び富田剛夫学生後援会会長から祝辞がありました。

さらに、入学生を代表して、地域未来デザイン工学科の上見拓也さんから、今後の誓いを込めた力強い宣誓があり、式は無事終了しました。

なお、入学者数は次のとおりです。

#### 学 部

学科名	入学者数(人)
地球環境工学科	194
地域未来デザイン工学科	218
合計	412

#### 学部編入学

学科名	入学者数(人)
機械工学科	3
社会環境工学科	5
電気電子工学科	2
情報システム工学科	3
合計	13

#### 大学院博士前期課程

専攻名	入学者数(人)
機械工学専攻	28
社会環境工学専攻	23
電気電子工学専攻	19
情報システム工学専攻	16
バイオ環境化学専攻	17
マテリアル工学専攻	26
合計	129

#### 大学院博士後期課程

専攻名	入学者数(人)
生産基盤工学専攻	5
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	2
医療工学専攻	2
合計	9



入学生代表宣誓

## = 告辞 =

### 平成 30 年度入学式告辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

北見工業大学の教職員を代表いたしまして、皆さんのご入学を心から歓迎いたします。また、これまで皆さんのご成長を温かく見守ってこられたご家族の皆様にも、心からお祝い申し上げます。

また本日はご多用にもかかわらず、北見市市長の辻様、大学後援会会長の永田様、同窓会会長の鳥越様、そして学生後援会会長の富田様にご臨席を賜り、入学式を挙行できますことに感謝申し上げます。

本学は、1960年に国立北見工業短期大学として、北見市をはじめ地域の大きな期待と共に開学した歴史があります。当時の入学定員はわずか80名でした。その後、1966年に四年制大学となり、大学院設置などを経て拡大と発展を遂げ、国際化を推し進めた結果、現在では2,000人を超える学生が在籍しています。今年度、学部には14人の留学生を含む412人の新入生と13人の編入生が入学されました。また大学院には、博士前期課程に129人、後期課程には9人が入学されました。その中には6人の留学生が含まれ、総勢563人の学生諸君が入学いたしました。

さて、皆さんは「第4次産業革命」をご存知でしょうか？過去に歴史の授業で習った通り、第1次産業革命とはジェームス・ワットが発明した蒸気機関を基に、18世紀後半に英国から西ヨーロッパ、そして世界に拡散した生産技術の革命です。その後、石油や電力を活用した新たな大量生産技術が、19世紀末から20世紀にかけて普及したのが第2次産業革命といわれ、第3次は

20世紀後半以降のコンピュータ技術による生産工程等の自動化を指しています。現在は、第3次から第4次産業革命への移行期と捉えられており、近年、ICTの発展により様々な経済活動がビッグデータ化され、それを分析・活用することで新たな経済価値を生み出し、さらにAIによって複雑な判断を伴う労働やサービスの自律的自動化が可能となりつつあります。

この第4次産業革命は単なる生産技術の革新だけに止まらず、個々の消費者ニーズにカスタマイズされたサービスが迅速に提供されることになり、従来、人間によって行われていた労働の多くがAIやロボットに代わると予想されています。十数年後には、日本の労働人口の約49%に相当する仕事がAIやロボットに代替可能になるという試算もあります。このように、皆さんがこれから学ぶ工学を専門とする技術者に求められる知識・技術などの素養は、今後、大きな転換期を迎えることは想像に難しくありません。大学では、単に高い専門知識を学ぶだけに止まらず、広い視野と分野横断的な応用力を身につけ、自ら課題を発見し解決できるロジカルで力強い行動力が必要とされるでしょう。

本学では、このような現代社会の大きな変化に柔軟に対応できる技術者を育成するため、昨年4月に学士課程の改組を実施し、これまでの6学科体制を2学科に再編しました。その2つの学科が「地球環境工学科」と「地域未来デザイン工学科」です。我々が生活する現代では、人類の営みを豊かにする科学の発展が、逆に地球温暖化をはじめとする地球環境問題を深刻なものにして

いるとも言えます。「地球環境工学科」では、これまでの「機械」、「土木」、「電気・電子」、「情報」、「化学」、「材料」などの工学の基幹分野を基盤としながらも、それぞれ異なる分野を横断的に学べる仕組みを導入し、総合的に環境問題やエネルギー問題に取り組める応用力を身に付けることができます。

一方、一次産業を基盤とするオホーツク地域に立地する本学としては、工学技術で一次産業を支援し、地域活性化と地域の未来に貢献することも重要な使命となります。「地域未来デザイン工学科」では、工学の基幹分野を基盤としつつ、身の回りに起こり得る様々な地域課題の解決に向けて積極的に取り組むことができる人材を育成します。その結果、これからの技術者に求められる広い視野と分野横断的な応用力が身につき、「地域」から「日本」、そして「世界」へと活躍できる素養が修得できます。さらに、いずれの学科においても多くのアクティブラーニング科目が用意されており、自ら課題を発見し答えを導き出し、自信を持って解決できる能力を磨くことができます。

また研究面でも、本学では地域性を活かした特色ある研究を推進しています。例えば、今年2月に開催された平昌オリンピックで、見事銅メダルを獲得した女子カーリングチームのロコ・ソラーレ北見の活躍は記憶に新しいところです。本学の卒業生がチームメンバーの1人でしたが、実は研究成果でもチームの躍進を支援してきました。カーリングは氷上のチェスといわれるほど戦術が重要な競技ですが、本学の冬季スポーツ科学研究推進センターでは、情報科学技術により開発した戦略支援システムによってチームの競技力向上に貢献してきました。その他にも、さまざまな工学分野でユニークな研究が数多く展開されています。4

年生で行う卒業研究や、大学院進学後に取り組む研究活動を、是非、楽しみにしながら多くの知識を修得してください。

現在は、ICTを中心に技術革新や社会の構造改革が進んでいることは今までお話しした通りです。しかし最も重要なことは、皆さんが学ぶ工学は、人類の営みを豊かにするための学問であるということです。人類の営みを豊かにするためには、広い視野でその営みを正しく理解しなくてはなりません。すなわち、工学によって人間社会に貢献するためには、人間同士のコミュニケーションが必要だということです。いくら情報技術が進歩しても、電子メールやSNSだけでは正しく意思を伝達し、相互理解を深めることはできません。これは受信側がどう受け止めるかを発信側が制御できないためです。人間同士の会話であれば単に言語で意思を表現するだけでなく、語気や表情の変化を加えたり、ジェスチャーを交えたり、複合化した情報を双方向で通信し合うことで正しい意思の伝達を可能にしています。

将来、技術者として社会に貢献するためには技術や知識の習得だけではなく、このコミュニケーション能力の向上が重要です。その第一歩として、是非、学生生活の中で新たな友人を作ってください。本学には、全国各地から学生諸君が入学しています。さまざまな文化を背景に育ってきた、これまで出会うことがなかった友人に出会えるチャンスがあります。より多くの友人と意見を交わしながら、皆さんの将来にそれを活かして欲しいと切に願います。

結びになりますが、大学生活という時間は、皆さんの人生にとって非常に貴重なものになります。輝かしい未来への希望を胸に一瞬一瞬を大切にしてください。

私も学長 1 年生として、皆さんと共に本  
学を発展させる所存です。皆さんの学生生

活が充実したものになりますよう祈念いた  
しまして、歓迎の挨拶といたします。

平成 30 年 4 月 5 日  
北見工業大学長 鈴木 聡一郎



= 入 試 =

平成 31 年度編入学学生募集要項の公表

(入 試 課)

平成 31 年度編入学学生募集要項が公表されました。概要は以下のとおりです。

選抜の種類	推薦入試・学力試験入試・社会人特別入試				
学科及び募集人員	募 集 人 員				
	学 科	第 1 次募集		第 2 次募集	
		推薦入試	学力試験 入 試	社 会 人 特別入試	推薦入試
	地 球 環 境 工 学 科	5 人	若 干 人	若 干 人	未 定
地域未来デザイン工学科	5 人				
出 願 資 格	<p>推薦入試</p> <p>(1) 高等専門学校・理工系の短期大学を平成 31 年 3 月卒業見込みの者（ただし、商船高等専門学校商船学科については、平成 31 年 9 月卒業見込みの者）</p> <p>(2) 学校教育法第 132 条に規定する専修学校の専門課程（修業年限が 2 年以上で、かつ、課程の修了に必要な総授業時数が 1,700 時間以上であるものに限る。）を平成 31 年 3 月修了見込みの者（学校教育法第 90 条第 1 項に規定する者に限る。）</p> <p>(3) 学校教育法第 58 条第 2 項に規定する高等学校の専攻科の課程（修業年限が 2 年以上で、かつ、文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を平成 31 年 3 月修了見込みの者（学校教育法第 90 条第 1 項に規定する者に限る。）</p> <p>学力試験入試</p> <p>(1) 大学を卒業した者又は平成 31 年 3 月卒業見込みの者</p> <p>(2) 学校教育法第 104 条第 4 項の規定に基づき、大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者又は平成 31 年 3 月までに授与される見込みの者</p> <p>(3) 高等専門学校・短期大学を卒業した者又は平成 31 年 3 月までに卒業見込みの者（ただし、商船高等専門学校商船学科については、平成 31 年 9 月卒業見込みの者） 等</p> <p>社会人特別入試</p> <p>入学時において企業等に正規の職員として 2 年以上在職中で、在職のまま入学することができ、所属長からの推薦がある者で、次のいずれかに該当するもの</p> <p>(1) 理工系の高等専門学校を卒業した者</p> <p>(2) 理工系の短期大学を卒業した者</p> <p>(3) 大学・学部の理工系学科を卒業した者又は大学・学部の理工系学科に 2 年以上在学し、62 単位以上を修得し退学した者</p>				

出願期間	第1次募集	推薦入試・社会人特別入試	5月9日(水)～5月15日(火)
		学力試験入試	6月5日(火)～6月11日(月)
	第2次募集	推薦入試・学力試験入試	10月17日(水)～10月23日(火)
試験日	第1次募集	推薦入試・社会人特別入試	5月30日(水)
		学力試験入試	6月27日(水)
	第2次募集	推薦入試・学力試験入試	11月13日(火)
合格発表	第1次募集	推薦入試・社会人特別入試	6月6日(水)
		学力試験入試	7月11日(水)
	第2次募集	推薦入試・学力試験入試	12月12日(水)

## 平成 31 年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項の公表

(入 試 課)

平成 31 年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項が公表されました。概要は以下のとおりです。また、平成 30 年度大学院秋季入学の学生募集要項も同時に公表され、平成 31 年度入試の第 1 回募集と同一日程で実施されます。

### 平成 31 年度大学院工学研究科博士課程

	博士前期課程	博士後期課程																																									
専 攻	機械工学専攻、社会環境工学専攻、電気電子工学専攻、情報システム工学専攻、バイオ環境化学専攻、マテリアル工学専攻	生産基盤工学専攻 寒冷地・環境・エネルギー工学専攻 医療工学専攻																																									
選 抜 の 種 類	一般入試（学力試験入試・推薦入試） 学部 3 年次学生対象入試 ユニバーサルコース入試 外国人留学生特別入試 高等専門学校専攻科生特別入試	一般入試 社会人特別入試 外国人留学生入試																																									
募集人員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般入試</li> </ul> <table border="1" style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse; width: 80%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2" style="text-align: center;">第 1 回</th> <th style="text-align: center;">第 2 回</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">学力 試験</th> <th style="text-align: center;">推薦 入試</th> <th style="text-align: center;">学力 試験</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機 械 工 学 専 攻</td> <td style="text-align: center;">11</td> <td style="text-align: center;">11</td> <td rowspan="7" style="text-align: center; vertical-align: middle;">各専攻とも若干人</td> </tr> <tr> <td>社会環境工学専攻</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">10</td> </tr> <tr> <td>電気電子工学専攻</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">10</td> </tr> <tr> <td>情報システム工学専攻</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> <tr> <td>バイオ環境化学専攻</td> <td style="text-align: center;">9</td> <td style="text-align: center;">9</td> </tr> <tr> <td>マテリアル工学専攻</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">56</td> <td style="text-align: center;">56</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部 3 年次学生対象入試 各専攻とも若干人</li> <li>・ユニバーサルコース入試 各専攻とも若干人</li> <li>・外国人留学生特別入試 各専攻とも若干人</li> <li>・高等専門学校専攻科生特別入試 各専攻とも若干人</li> </ul>		第 1 回		第 2 回	学力 試験	推薦 入試	学力 試験	機 械 工 学 専 攻	11	11	各専攻とも若干人	社会環境工学専攻	10	10	電気電子工学専攻	10	10	情報システム工学専攻	8	8	バイオ環境化学専攻	9	9	マテリアル工学専攻	8	8	計	56	56	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般入試</li> <li>・社会人特別入試</li> <li>・外国人留学生入試</li> </ul> <table border="1" style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse; width: 80%;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">第 1 回</th> <th style="text-align: center;">第 2 回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生産基盤工学専攻</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">若干人 各専攻とも</td> </tr> <tr> <td>寒冷地・環境・エネルギー工学専攻</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> <tr> <td>医療工学専攻</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> </tbody> </table>		第 1 回	第 2 回	生産基盤工学専攻	3	若干人 各専攻とも	寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	3	医療工学専攻	2	計	8
	第 1 回		第 2 回																																								
	学力 試験	推薦 入試	学力 試験																																								
機 械 工 学 専 攻	11	11	各専攻とも若干人																																								
社会環境工学専攻	10	10																																									
電気電子工学専攻	10	10																																									
情報システム工学専攻	8	8																																									
バイオ環境化学専攻	9	9																																									
マテリアル工学専攻	8	8																																									
計	56	56																																									
	第 1 回	第 2 回																																									
生産基盤工学専攻	3	若干人 各専攻とも																																									
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	3																																										
医療工学専攻	2																																										
計	8																																										
出願資格	大学を卒業した者又は平成 31 年 3 月までに卒業見込みの者 等	修士の学位若しくは専門職学位を有する者又は平成 31 年 3 月までに授与される見込みの者 等																																									



出願期間	第1回募集 平成30年6月18日(月)～6月28日(木) (推薦入試の併願を希望する者 平成30年6月11日(月)～6月15日(金)) (出願資格の事前審査 平成30年5月14日(月)～5月18日(金)) 第2回募集 平成31年1月21日(月)～1月25日(金) (出願資格の事前審査 平成30年11月20日(火)～11月27日(火))	
試験日	第1回募集 学力試験 学力検査 平成30年8月20日(月) 面接試験 平成30年8月21日(火) 推薦入試 面接試験 平成30年7月4日(水)  第2回募集 学力試験 平成31年2月12日(火) 面接試験 平成31年2月13日(水)	第1回募集 面接試験 平成30年8月22日(水)  第2回募集 面接試験 平成31年2月12日(火)
合格発表	第1回募集 平成30年9月5日(水) ※推薦入試選考結果通知 平成30年7月11日(水) 第2回募集 平成31年2月20日(水)	第1回募集 平成30年9月5日(水) 第2回募集 平成31年2月20日(水)

平成 30 年度大学院工学研究科博士課程（秋季入学）

	博士前期課程	博士後期課程
専攻	機械工学専攻、社会環境工学専攻、電気電子工学専攻、情報システム工学専攻、バイオ環境化学専攻、マテリアル工学専攻	生産基盤工学専攻 寒冷地・環境・エネルギー工学専攻 医療工学専攻
選抜の種類	一般入試 社会人特別入試 外国人留学生特別入試	一般入試 社会人特別入試 外国人留学生入試
募集人員	・一般入試 各専攻とも若干人 ・社会人特別入試 各専攻とも若干人 ・外国人留学生特別入試 各専攻とも若干人	一般入試 社会人特別入試 外国人留学生入試 各専攻とも若干人
出願資格	大学を卒業した者又は平成30年9月までに卒業見込みの者 等	修士の学位若しくは専門職学位を有する者又は平成30年9月までに授与される見込みの者 等
出願期間	平成30年6月18日（月）～6月28日（木） （出願資格の事前審査 平成30年5月14日（月）～5月18日（金））	
試験日	学力検査 平成30年8月20日（月） 面接試験 平成30年8月21日（火）	面接試験 平成30年8月22日（水）
合格発表	平成30年9月5日（水）	平成30年9月5日（水）

= 研究助成 =

平成30年度科学研究費助成事業内定一覧

○基盤研究(B)一般

(研究協力課)

氏名	職名	研究課題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
榊井 文人	准教授	カーリングを科学する～情報機械技術を統合した新たな戦術支援の試み	2,860		○
川村 みどり	教授	高安定銀薄膜の実用化を目指した光学特性評価	2,340		○
小原 伸哉	教授	三相界面構造の最適化によるガスハイドレート生成速度の大幅増加に関する研究	2,210		○
山下 聡	教授	北海道周辺海域におけるメタンハイドレートの生成メカニズムと資源化アプローチ	4,810		○

○基盤研究(B) 海外学術調査

氏名	職名	研究課題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
大野 浩	助教	地下氷コア解析によるアラスカ永久凍土域の環境動態解明－氷床コア研究法を応用して－	3,510		○
南 尚嗣	教授	バイカル湖最古堆積物域に発現するメタンハイドレートの多様性と生成機構の解明	4,680		○

○基盤研究(C)一般

氏名	職名	研究課題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
佐藤 利次	准教授	RNAi法等によるシイタケ・ラッカーゼの生理的機能及び遺伝子発現メカニズムの解明	780		○
早川 吉彦	准教授	統計的画像処理法と圧縮センシングによるコーンビーム型X線CT画像の高画質な再構成	780		○
前田 康成	教授	空間的分析と時間的制御を融合した、次世代商品推薦システムのための基礎理論の構築	1,560		○
山田 貴延	教授	エネルギー循環型バイオガス下水処理場への潜熱蓄熱システム導入の試み	390		○
新井 博文	教授	ハマナス花卉ポリフェノールによるアテローム性動脈硬化症予防作用	1,820		○
野田 由美意	准教授	抵抗か、順応か？——ナチスの芸術政策と「若きラインラント」	1,040		○
浪越 毅	准教授	らせんポリフェニルアセチレン膜の超高速光環化による超分子自立膜の創製と膜の機能化	1,040		○
松田 剛	教授	高表面積酸化モリブデンの表面改質によるコアシェル型モリブデン窒化物・炭化物の開発	910		○
渡邊 眞次	教授	テトラカルボン酸ジエステルの分散重合による全芳香族ポリイミド粒子の合成と機能化	910		○
柴野 純一	教授	放射光白色X線による単結晶延性損傷評価法の開発	1,820		○
林田 和宏	准教授	火炎内における酸化履歴が炭素質PMの排出濃度とナノ構造に及ぼす影響の解明	455		○
中村 大	准教授	凍結融解を受ける河川堤防に適した堤体材料の選定法と締めめ基準の提案	650		○
阿部 良夫	教授	水蒸気の直接噴射による水酸化物薄膜のスパッタ成膜プロセスの研究	910		○
曾根 宏靖	准教授	太陽光を用いた省エネ型光通信システムの開発	1,300		○
奥村 貴史	教授	診断支援システムのユーザーインターフェースに関する研究	1,950		○

氏名	職名	研究課題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
星野 洋平	准教授	分散配置型マイクロ動吸振器アレイによる超低振動高効率大型ブームスプレーヤの実現	1,690		○
柏 達也	教授	大規模精密解析に基づくミリ波帯人体ばく露安全性評価と国際標準化	1,560		○
梅村 敦史	助教	風力発電平均電力の学習予測制御を備えた系統連系インバータの研究	1,560		○
金 敬鎬	准教授	機能性両面受光型有機系太陽電池の研究	1,430		○
佐藤 勝	助教	極微細TSVのための界面層フリーな新規バリヤ材料の開発	1,300		○
川口 貴之	准教授	寒冷地特有の斜面崩壊メカニズムを考慮した新しいのり面保護工の提案と効果検証	1,950		○
坂上 寛敏	助教	ガスハイドレート包接炭化水素分子と気相炭化水素分子の交換挙動の解明	1,170		○
服部 和幸	准教授	低エネルギーで真に実用可能な結晶セルロースの加水分解法の検討	1,300		○
戸澤 隆広	准教授	ミニマリスト・プログラムにおける関係節と比較節の研究	650	○	
蒲谷 祐一	准教授	低次元多様体の基本群の高次表現と幾何構造	520	○	
升井 洋志	教授	核子対相関と非束縛状態を基とした核構造の多様性の系統的解明	1,170	○	
渡辺 美知子	准教授	ビヘイビアコンボーズドによるカンブリア紀古代魚の複合・複雑行動の獲得	1,300	○	
田口 健治	准教授	3次元電磁界解析に基づく中間周波帯の人体ばく露安全評価と国際標準化	1,300	○	
高橋 理音	准教授	離島・非電化地域における自然エネルギー利用導入に向けたマイクログリッド技術の開発	2,600	○	
武山 眞弓	准教授	最先端3次元デバイス及び3D-LSIに適用可能なCu配線における革新的配向制御	2,470	○	
柴田 浩行	教授	超伝導単一光子検出器の20K動作	1,820	○	
井上 真澄	准教授	温水循環式エアヒーターを用いた省エネ型コンクリート給熱養生システムの構築	1,690	○	
宮森 保紀	准教授	高密度画像計測データの構造解析モデルへの直接的変換—鋼構造への粒子法の適用	1,820	○	
吉川 泰弘	准教授	寒冷地河川における実用的アイスジャム計算モデルの開発と陸面モデルによる広域展開	1,690	○	
高橋 清	教授	自転車走行を考慮した路面評価システムの構築	2,340	○	
川村 武	准教授	暴風雪悪視界下で吹き溜まりの検知・回避と脱出のための車両ナビゲーションシステム	1,950	○	
古瀬 裕章	准教授	透光性多結晶アパタイト蛍光体の高品位化と特性評価	2,080	○	
大津 直史	准教授	非水溶媒陽極酸化を用いた“感染症を防ぐ”可視応答光触媒被膜チタン手術器具の創製	1,690	○	
酒井 大輔	助教	電圧プリントと選択堆積を用いた汎用ガラスへの光機能創成	1,820	○	

## ○若手研究(B)

氏名	職名	研究課題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
平井 慈人	助教	金属空気電池に適用できる高性能な触媒材料の合成と触媒活性支配因子の探索	910		○
吉澤 真吾	准教授	水中音響通信方式における耐ドップラーシフト頑健性の研究	910		○
渡邊 達也	助教	岩盤水分量の定量化手法の確立と寒冷地岩盤における水分挙動の解明	650		○
崔 希燮	助教	厳冬期の耐寒促進剤コンクリートの膨張収縮およびひび割れ予測手法の開発	1,300		○
川尻 峻三	助教	河川増水時の橋台背面盛土の浸食・流出機構の解明と粘り強い対策工法の提案	780		○
松田 一徳	准教授	Koszul代数の多角的な研究	650		○

## ○若手研究

氏名	職名	研究課題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
伊藤 敦	准教授	低医療費と良質な医療提供の実現に向けたプライマリ・ケアの機能強化方法に関する研究	1,300	○	
佐藤 一宏	助教	リーマン多様体上の最適化手法を用いた大規模電力ネットワークシステムの同定法 の開発	1,430	○	
楊 亮亮	助教	車輪式農用車両の傾斜地における横滑り発生機構の解明と動的横滑り防止制御	1,170	○	
橋本 泰成	准教授	ブレイン・マシン・インタフェースを使ったベットの脳卒中リハビリシステムの 開発	3,250	○	
宮崎 健輔	助教	汎用プラスチックを用いたリサイクル型生分解性循環材料の開発	2,730	○	

## 平成30年度共同研究の受入状況

平成30年5月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
情報システム工学科	准教授	榊井 文人	カーリング競技の戦略シミュレータに関する研究	株式会社AIS北海道
社会環境工学科	准教授	中村 大	積雪寒冷地における切土法面の凍上対策に関する研究	独立行政法人土木研究所寒地土木研究所
社会環境工学科	教授	三上 修一	社会基盤の維持・補修設計に関わる技術支援制度の実践運用のための共同研究	網走測量設計協会
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	耐寒促進剤を用いたコンクリートの冬期施工に関する研究	国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所
社会環境工学科	准教授	舘山 一孝	路面雪氷センシング技術の高度化に関する研究	国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所
社会環境工学科	准教授	吉川 泰弘	積雪寒冷地を対象とした冬期の取水障害の対策技術の開発	新明和工業株式会社
社会環境工学科	准教授	吉川 泰弘	結氷河川におけるアイスジャム被害に対応する河川管理技術に関する研究	国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	河川における土砂の移動特性を考慮した河川管理技術に関する研究	国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所/ 愛知工業大学総合技術研究所
社会環境工学科	助教	川尻 峻三	積雪寒冷地における既設補強土壁の健全度評価手法の確立に関する研究	国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所
社会環境工学科	准教授	吉川 泰弘	積雪寒冷地河川のアイスジャム予測ツールの開発	北海道開発局旭川開発建設部
地球環境工学科	准教授	舘山 一孝	海氷厚および海氷融解度推定アルゴリズムの開発	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構
地域未来デザイン工学科	教授	渡邊 康玄	豪雨に伴う橋梁被害軽減のための計画と設計に関する検討	株式会社構研エンジニアリング
地域未来デザイン工学科	准教授	井上 真澄	機能性コンクリートに適用する化学混和剤の研究	日産化学工業株式会社
地球環境工学科	准教授	舘山 一孝	積雪地域における雲の放射影響の研究	気象研究所
地球環境工学科	教授	大野 智也	セシウム酸化タングステン表面へのナノコーティング方法とその効果	株式会社リコーIMS事業本部
地球環境工学科	教授	亀田 貴雄	VLF帯電波受信器を用いた日本・アジア域で発生する雷放電のリアルタイム監視	国立大学法人北海道大学
地域未来デザイン工学科	准教授	吉澤 真吾	水中音響通信装置のシミュレーションソフトウェアの研究他	三菱電機特機システム株式会社
地域未来デザイン工学科	教授	小西 正朗	低温環境におけるメタン発酵消化液の効率処理法の開発	株式会社アクト
地域未来デザイン工学科	教授	川村 彰	ワイヤレス路面性状測定装置の開発	株式会社PROFICT LAB
地球環境工学科	教授	村田 美樹	ハッカからの有効成分抽出法の開発と評価	株式会社北見ハッカ通商
地球環境工学科	教授	村田 美樹	ハッカ水蒸気蒸留残渣及び芳香蒸留水の利活用	株式会社北見ハッカ通商
地球環境工学科	教授	村田 美樹	人工光源による和種ハッカの育成	株式会社北見ハッカ通商
地球環境工学科	准教授	川口 貴之	積雪寒冷地における屋根型路盤を有する林道の性能評価	鶴居村森林組合
地域未来デザイン工学科	助教	酒井 大輔	透明海洋生物の光学特性の役割解明に関する研究	国立研究開発法人産業技術総合研究所/ 国立大学法人琉球大学/学校法人東海大学
地域未来デザイン工学科	教授	川村 彰	平成29年度 注意喚起溝工法に関する共同研究	株式会社高速道路総合技術研究所/ 鹿島道路株式会社
地球環境工学科	教授	阿部 良夫	寒冷地に適したエレクトロクロミック・スマートウィンドウに関する研究	北海道ガス株式会社 技術開発研究所
地域未来デザイン工学科	准教授	宮森 保紀	低温環境下における免震ゴム支承の力学特性	住友理工株式会社 免制振デバイス技術部/ 日本鑄造株式会社

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
地域未来デザイン工学科	准教授	富山 和也	モバイルプロフィロメータを用いた冬期路面モニタリングに関する基礎的研究	株式会社中神土木設計事務所
工学部	特任教授	鈴木 勉	福島県産間伐材の鉄触媒炭化による機能性炭素の製造	株式会社TPJ環境
地球環境工学科	准教授	古瀬 裕章	希土類添加透光性アルミナ多結晶体の創製	国立研究開発法人物質・材料研究機構
地球環境工学科	准教授	大津 直史	銀徐放性抗菌材料から発生するラジカル種の同定・定量	エビナ電化工業株式会社
地域未来デザイン工学科	教授	早川 博	北見市環境調査研究（大気、水質、騒音・振動、臭気、ダイオキシン類）	北見市
地域未来デザイン工学科	教授	早川 博	北見市生物調査研究	北見市
地域未来デザイン工学科	教授	早川 博	北見市一般廃棄物処理に関する環境調査並びにごみ質調査共同研究	北見市
地球環境工学科	教授	柴田 浩行	超伝導体を用いた検出器の研究	日本電信電話株式会社 NTT物性科学基礎研究所
工学部	特任教授	鈴木 勉	鉄触媒炭化によるEFBファイバーからの機能性炭素製造	株式会社トッププランニングJAPAN
地球環境工学科	教授	南 尚嗣	紋別市における下水汚泥・放流水中の有害微量成分の定量に関する長期的研究	紋別市下水道事業
地球環境工学科	准教授	林田 和宏	PCVガス除湿システム基礎研究 その6	株式会社ワーカム北海道
地球環境工学科	教授	田村 淳二	再エネ同期化力制御技術の研究	株式会社日立製作所 研究開発グループ テクノロジーイノベーション統括本部
地球環境工学科	教授	南 尚嗣	網走市における下水汚泥および放流水中成分の長期モニタリング研究	網走市
地球環境工学科	教授	南 尚嗣	網走市能取汚水処理施設における放流水中成分の長期モニタリング研究	網走市

※ 前年度からの継続分については、受入時の旧学科名称を表記している

平成30年度累計41件

## 平成30年度受託研究の受入状況

平成30年5月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研 究 題 目	委 託 機 関	所要経費
地域未来デザイン工学科	教授	三上 修一	(SIP) 北見地域におけるアセットマネジメント実装に関する研究開発	国立研究開発法人科学技術振興機構	円 3,294,313

平成30年度累計1件

## 平成30年度奨学寄附金の受入状況

平成30年5月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
工学部	特任教授	大橋 鉄也	工学研究のため	企業組合北見産学医協働センター	円 650,000
地球環境工学科	准教授	高井 和紀	住宅室内空気質の分析調査	特定非営利活動法人日本VOC測定協会	800,000
地域未来デザイン工学科	助教	佐藤 一宏	学術研究のため	公益財団法人旭硝子財団	1,000,000
地域未来デザイン工学科	准教授	宮森 保紀	鋼橋の耐荷力に関する研究のため	株式会社構研エンジニアリング	500,000
	学長	鈴木 聡一郎	学生支援活動のため	(非公表)	50,000
地球環境工学科	教授	亀田 貴雄	雪氷学分野の研究奨励	株式会社清月	8,016
地域未来デザイン工学科	教授	平山 浩一	マイクロ波帯回路の研究	株式会社関東電子応用開発	300,000
	学長	鈴木 聡一郎	父母懇談会及び就職支援等の事業を推進するため	北見工業大学学生後援会	1,500,000
	学長	鈴木 聡一郎	平成31年度に本学が主管大学となる第54回全日本学生トランポリン競技選手権大会の競技基準を満たすトランポリン更新の一部助成	北見工業大学学生後援会	1,000,000
地域未来デザイン工学科	准教授	宮森 保紀	橋梁モニタリング技術の開発研究のため	株式会社フジエンジニアリング	500,000
地域未来デザイン工学科	准教授	井上 真澄	コンクリートの凍害とアルカリ骨材反応との複合劣化に関する資料収集	株式会社フジエンジニアリング	1,000,000
地球環境工学科・ 地域未来デザイン工学科	准教授	野田 由美意	国際シンポジウム・ラインラントの美術（平成30年9月）に関する費用として	公益財団法人ポーラ美術振興財団	2,000,000
地球環境工学科	准教授	川口 貴之	平成30年度 高速道路の防災対策、災害支援等の研究機関への助成として (研究課題：のり面表層の砕石が有する排水促進機構の解明と排水パイプを用いたハイブリッド斜面安定工への応用)	三菱UFJ信託銀行株式会社	2,800,000
地域未来デザイン工学科	准教授	富山 和也	ドライビングシミュレータを用いた道路交通評価に関する研究のため	株式会社片平新日本技研	345,000

平成30年度累計14件



= 人事 =

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	新職名(発令事項)
30.5.1	(新規採用)	(おくむら たかし) 奥村 貴史	工学部教授
30.6.1	工学部准教授	大津 直史	工学部教授
〃	学務課学生支援室長(係長兼務)	渡部 孝弘	学務課学生支援室長

## = 受賞 =

### 本学学生が平成 29 年度地盤工学会 北海道支部賞（学生部門）を受賞

（社会環境工学科）

このたび、本学学生の山岸昂平さん（社会環境工学専攻 2 年、凍土・土質研究室）と御厩敷公平さん（社会環境工学専攻 1 年、凍土・土質研究室）が公益社団法人地盤工学会北海道支部より、平成 29 年度地盤工学会北海道支部賞学生部門を受賞しました。

この賞は、地盤工学会北海道支部発行の「技術報告集」に掲載された論文の中から、研究内容に加えて学会発表時のプレゼンテーション力についても評価の対象となって選出されます。

山岸さんの受賞対象論文は「樹脂製受圧板を用いた地山補強土工の凍上対策に関する検討」であり、地山補強土工と呼ばれる斜面安定工法について、学内の研究フイー

ルドを利用して、積雪寒冷環境特有の厳しい気候条件下でも十分な耐久性を発揮できる新たな手法の研究開発に取り組んだものです。御厩敷さんの受賞対象論文は「水理模型実験による橋台背面盛土の崩壊メカニズムと対策工に関する検討」であり、2016 年北海道豪雨で多発した橋台背面の盛土流失について、河川を模擬した実験水路を利用して、河川増水時の盛土の崩壊メカニズムと、崩壊に対する具体的な対策工法について実験的に検討したものです。

両論文ともに本学で取り組んでいる積雪寒冷環境における地盤防災・減災技術の研究・開発に関するものであることに加えて、民間企業や学内の他分野研究者との共同研究の成果が高く評価されました。



授賞式での御厩敷さん（左）と山岸さん（右）

## 北海道内国立大学法人の経営改革の推進に関する合意書を締結

(学長企画室)

5月29日(火)、小樽商科大学、帯広畜産大学、本学の3大学が経営改革の推進に関する合意書を締結しました。合意書は、18歳人口の減少、産業構造の変化などの高等教育を取り巻く状況に対応し、北海道経済・産業の課題解決とその発展及び国際社会の繁栄に一層貢献するため、商学、農学、工学の「実学」を担う3大学が協働により経営改革を推進することに合意するものです。

合意書締結の背景としては、異なる強み・特色を持つ3単科大学が密接に連携することにより、地域に貢献する大学として各大学の教育・研究を守り、かつ発展(教育研究機能の強化)させるという思いが一致したということがあります。本合意書では、3大学の教育研究活動等の自主性・自律性を確保しつつ専門分野の成果・知見を融合する連携事業を推進し、平成34年4月(第4期中期目標期間開始時点)に経営統合することを目標としています。経営統合により経営機能・業務の集約・合理化を

図り、それによって生まれた資金を、教育研究に還元することを計画しています。

今後、本学がこれまで力を入れてきた取り組みが、他大学との連携を強固にすることによって、地域的にも産業的にも広がり、ひいては北海道における地域の人口減少の抑止、道内の産業振興に伴う雇用創出、北海道の経済活性化につながるが大いに期待されます。

締結式後の記者会見において、鈴木聡一郎学長は「農工商が専門の単科大学が連携することで、単独より大きな研究やユニークな教育ができるようになる。」と述べ、冬季スポーツに関連し、「帯広畜産大学と協同して選手のパフォーマンスを向上させるサプリメント(機能性食品)を開発したり、スポーツを観光に結びつけるため小樽商科大学のマーケティングのノウハウを活用することなどを考えている。」と述べました。

締結式及び記者会見には多くの報道機関が出席し、3大学の協働による経営改革への高い注目と期待がうかがわれました。



統合に向けた記者会見に臨み、手を重ねる(左から)小樽商科大学の和田健夫学長、帯広畜産大学の奥田潔学長、北見工業大学の鈴木聡一郎学長

## 平成30年度技術セミナー（技術士養成支援講座）を開講

（社会連携推進機構）

4月5日（木）に北海道教育大学札幌駅前サテライトで、平成30年度技術セミナー（技術士養成支援講座）開講式を実施しました。

本講座は社会人技術者に学びの場を提供するため、本学出身の技術者が講師となり、技術士資格取得希望者を対象に、講義や添削指導により資格取得を支援するものです。平成19年度から毎年開講し、12年間継続して実施しています。これまでに286の方が受講し、39人の技術士合格者を輩出しています。

今年度の講座では、16人の受講希望者が札幌在住ということで、同市に会場を設け、

4月から7月までの開講期間に計4回の講義を予定しています。開講時間は社会人の方にも受講しやすいよう、全て18時以降に設定しています。

開講式当日は、鈴木聡一郎学長からの受講者に対する技術士資格取得に向けた激励文を清野千春研究協力課長が代読され、引き続き講師の自己紹介が行われました。開講式後には、本講座修了の合格者による体験談の報告も交え講義が行われました。

今年も受講者から多くの合格者が出ることを期待しています。



本講座の目的を説明する佐藤講師



講師の言葉に真剣に耳をかたむける受講者

## 複合型豪雨災害研究ユニット報告会を開催

(複合型豪雨災害研究ユニット)

4月5日(木)、本学において、複合型豪雨災害研究ユニット報告会を開催しました。

本研究ユニットは、平成28年の北海道豪雨災害など、近年脅威が高まっている豪雨災害に対して、専門分野間の連携と産官学の協力で融合的に現象を解明するとともに、効果的な対策手法を立案することを目的としています。

今回の報告会は、本研究ユニットの活動内容を、関係者や関心のある方々と共有することで研究成果を早期に社会実装することを目的に開催しました。報告会には本学の学生や教職員、共同研究関係者、民間や行政の技術者及び地域の方々など、約70人の参加がありました。

報告会では、本研究ユニットを構成する河川・地盤・構造の各研究室から平成29年度の研究成果について発表があり、参加者の皆さんとの間で実験や解析の内容、今後の方向性について熱心な議論が交わされました。また、網走開発建設部北見河川事務所の土門文之計画課長からは、「最近の治水対策の傾向」と題した話題提供をいただき、今後の防災対応についても意見が交わされました。

本研究ユニットでは、引き続き北海道東部地域の特性を踏まえた研究を推進するとともに、その成果を継続的に、広く社会と共有して地域の災害対応力の向上に貢献していきます。



早川研究ユニット代表の挨拶



渡邊プロジェクト研究推進センター長の発表



熱心に意見交換を行う参加者



土門北見河川事務所計画課長からの話題提供

## 社会連携推進センター推進協議会総会を開催

(社会連携推進センター)

4月26日(木)、本学において北見工業大学社会連携推進センター推進協議会総会が開催されました。

本協議会は、本学の社会連携推進センター(以下、CRC)を中心として、オホーツク地域の行政・民間機関との共同研究、研究交流、技術の指導・教育・開発などを推進することを目的として北見市が運営している組織です。この目的を達成するために、CRCは毎年、本協議会から地域に貢献していくための貴重な活動資金をご支援いただいております。

総会には、永田正記協議会会長をはじめ地域産業団体及び公組織から委員の方々が、本学からは鈴木聡一郎学長をはじめ、川村彰理事・副学長、渡邊康玄副学長、有田敏彦CRCセンター長ら関係者が出席し、平成

29年度の事業報告及び予算・決算報告、並びに平成30年度の事業計画(案)及び予算(案)について審議されました。

また、本学の活動状況として、冬季スポーツ科学研究推進センター長である梶井文人准教授から「カーリング情報学の推進ー平昌オリンピックを含む試合情報分析ー」、有田CRCセンター長から「オホーツク地域創生研究パーク(旧ばんば場利活用計画)を中心とした活動」と題して、それぞれ報告がありました。

委員からは、現在進められている研究内容に関して、他方面への発展可能性などについて質問が出るなど、本学における研究内容に対して、地域からご期待をいただいていることを再認識する総会となりました。



協議会総会の様子



冬季スポーツ科学研究推進センターの研究活動を紹介する梶井准教授

## 平成 30 年度構内美化作業を開始

(施 設 課)

本学で毎年恒例となっている「構内美化作業」が5月8日(火) から開始されました。初日には、朝から雪がちらつくなど、5月とは思えない冷え込みの中での実施となりました。

鈴木聡一郎学長からの挨拶に始まり、本学の環境保全学生委員会 (KITeco) によるゴミの収集場所および分別の説明が行なわれた後、約 100 人の参加者がそれぞれ所定

の場所へ移動してゴミを拾いました。

この取り組みは9月下旬まで3週間に1回(夏季休業期間を除く)、昼休みを利用して学生・教職員が協力して構内および周辺道路の清掃を実施するものです。

北海道に位置する大学らしく、緑あふれる美しいキャンパスを維持できるよう、今年度も定期的の実施する予定です。



美化作業開始の挨拶をする鈴木学長



KITecoによる分別の説明



火バサミを手に作業



分別が行なわれる収集場所

## 北見市産学官連携推進協議会総会を開催

(社会連携推進センター)

5月17日(木)、北見市産学官連携推進協議会の総会が開催されました。

本協議会は、北見市、経済団体、行政機関及び大学関係者が膝を交えて意見交換できる場として設置され、産業クラスター研究会オホーツクなどの活動を支援しています。

総会では、前会長の任期満了に伴い、本学川村彰理事・副学長が会長に選任されました。事業報告では、地域経済・産業の活性化に向けた平成29年度共同研究の取り組みとして、本学地球環境工学科 武山眞弓准教授から「エゾシカ肉及びオホーツク牛肉のブランド価値向上のための研究」について報告がありました。化学的分析やデータ収集による「美味しさの見える化」を実施することによって、食肉だけでなく様々な分野で活用することにより、オホーツク全

体のブランド力を向上させたいとのことでした。

また、平成30年度に向けた事業計画として、東京農業大学 小川繁幸助教の「農観連携による地域特産品の販路開拓に関する調査・研究～北見産「白花豆」を中心として～」、日本赤十字北海道看護大学 根本昌宏教授の「北見市から発信する日本初の緊急暖房対応型避難所の開発」、本学から地域未来デザイン工学科 榎井文人准教授の「カーリング情報学再び～市民リーグ戦試合情報の収集と分析」と題してそれぞれ説明があり、これらの共同研究計画は異議なく決定されました。

本学では、本協議会との連携を通して、今後も地域活性化に貢献する活動へ繋げていきたいと思えます。



協議会総会の様子



研究内容について質疑を行う武山准教授



## 「新入生へのブックガイド」を発行

(情報図書課)

本学図書館において、新入生への推薦図書をもとめたパンフレット「新入生へのブックガイド」を作成しました。

このパンフレットは、新入生が図書館を利用するきっかけとなるよう作成したもので、工学を学ぶ上での入門書から、趣味や雑学に関するものまで幅広い分野の図書を紹介する内容となっています。

パンフレットの作成にあたっては、教員や事務職員のほか、読書推進活動を行う学生ボランティア団体「ブック・プロジェクト」も紹介原稿の執筆に協力しました。こちらのパンフレットは本学のホームページ上にも公開しておりますので、ご興味のある方は新入生に限らず、ぜひご覧になってください。



「新入生へのブックガイド」

自然科学の研究の面白さを  
知ることができます！

**原田 康浩 准教授**  
地域未来デザイン工学科  
情報デザイン・コミュニケーション工学コース  
担当講師 光情報処理・情報デザイン・  
コミュニケーション工学実験Ⅱ

**書**  
中谷宇吉郎、1994、岩波書店

推奨場所：  
図書館教員指定図書 451944

赴任先の北海道大学理学部の廊下の片隅で天然に降る雪の結晶を顕微鏡で観察することから出発し、冬の十勝岳・白根荘に滞在して膨大な数の雪結晶の写真を撮影することに発展（なんとも素晴らしい研究！）。その写真を観察して雪の結晶の分類を行い、それに基づいてどんな時にどんな結晶が降るのか、統計を取る。このような観察から雪の結晶を自分で作れないかという発想に空り、やがて世界に先がけて人工雪を作ることに成功して、雪の結晶の生成条件を明らかにする。

『雪博士』として、そして巧みな文筆家としても有名な中谷宇吉郎博士がこれらの過程を早稲にわかりやすく語りかける昭和からのベストセラーです。自然を見る目、現象を考える態度、科学の研究の面白さを実感できる、新入生の皆さんにおすすめの一作です。

“ドボク”を学ぶなら  
読んでおいてほしい

**井上 真雄 准教授**  
地域未来デザイン工学科 社会インフラ工学コース  
担当講師 構造設計材料学、環境材料学、社会環境工学実験Ⅱ、PC・理台構造学

**橋とトンネル 日本のドボク**  
三浦基弘監修・造事務所編集  
2017、実業之日本社

推奨場所：図書館新書 515M67

私たちの生活を支えている道路・鉄道・ダムに代表される社会インフラ（土木系）。その中でも複雑な地形を克服し、人や物の円滑な移動を確保して国土の骨格を作り上げる橋とトンネルは、一見馴染みなく見えるかも知れませんが、実は個性があり、その場所に適した必然性や個々の事情も見えてきます。その発達の歴史も、世界や日本の産業史とも深く関わっており、とてもドラマチックと言えます。橋とトンネルの魅力は、それぞれ「構造」と「工法」。その観点で、数式を使わずに橋の構造を、豊富な事例に基づいてトンネルの魅力をわかりやすく解説されています。社会インフラ工学（土木系）を学ぶなら是非読んでおいてほしい一冊です。

ブックガイドの内容

## 訃 報



本学 三木康臣准教授は、急病によりご逝去されました。享年 60 歳でした。

三木准教授は、昭和 63 年 4 月に九州大学工学部助手に採用され、平成 5 年 6 月に本学地域共同研究センター助教授、平成 7 年 4 月に工学部機械システム工学科助教授、平成 19 年 4 月に同准教授、平成 28 年 4 月からは工学部准教授を歴任されておりました。

ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

## = 日誌 =

### 4 月

- 2日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 4日 教授会、研究科委員会、教育研究評議会
- 5日 入学式、複合型豪雨災害研究ユニット報告会、技術セミナー（技術士養成支援講座）
- 12日 発明審査委員会
- 13日 研究推進機構統括会議
- 18日 教育研究評議会、就職支援室会議
- 19日 経営協議会、学長選考会議、役員会、社会連携推進センター運営会議
- 20日 学生委員会
- 23日 教務委員会
- 24日 地域連携・国際交流委員会、共用設備センター運営会議、障がい学生支援室会議
- 25日 学生よろず相談室会議
- 26日 役員会、社会連携推進センター推進協議会総会

### 5 月

- 2日 アドミッションセンター運営会議
- 7日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 8日 構内美化作業
- 9日 編入学試験（推薦入試）出願受付（～15日）
- 10日 発明審査委員会
- 11日 学術推進機構統括会議
- 14日 学力検査実施委員会
- 15日 教務委員会
- 16日 教育研究評議会
- 17日 北見市産学官連携推進協議会
- 18日 地域連携・国際交流委員会、学生委員会、就職ガイダンス
- 22日 研究支援室会議
- 23日 留学生のための就職ガイダンス
- 25日 インターンシップ説明会
- 30日 編入学試験（推薦入試）面接試験